

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

No.	路線名	橋梁名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容※	診断後の実施内容	資料(状況写真又はアーカイブス)
1	国道9号	菟原大橋	2023年9月6日	大阪大学 金名誉教授 法政大学 森名誉教授 特定非営利活動法人 橋守支援センター 坂野理事長 舞鶴工業高等専門学校 玉田教授	多数の塗膜割れが主桁の横構ガセット溶接部に確認され、削り込みを行ったが、き裂が1箇所残存している。 また、前回点検から進展はないものの、横桁のウェブに上フランジとの回し溶接部や主桁の垂直補剛材溶接部にき裂があり、このほか、主桁の垂直補剛材溶接部には未調査の塗膜割れが多数残されている。	1) 横構ガセット溶接部付近のき裂は、現状は主桁が補強されて曲げモーメントに対する中立軸が下がり、軸方向の引張応力は小さくなっている。指示長さも短く、今すぐ対策を実施するという緊急性はない。ただし、今後、削り込みを行い除去したほうがよい。 2) 垂直補剛材上端溶接部のき裂(未調査部の多数の塗膜割れ)は、緊急性はなく、今後足場設置時に、対策を実施するのがよい。 3) 横桁部のき裂は、緊急性はないが、削り込みによるき裂の除去、き裂が横桁のウェブまで進展した場合にはストップホールを設ければよい。その後、再発防止のために、主桁および横桁の上フランジ間段差に鋼板を設置し、上フランジ同士を繋ぐ対策を行えばよい。	診断結果に基づき、順次対策を進めていく。	
2	国道9号	下鹿田橋	2023年9月28日	神戸大学 川谷名誉教授 大阪大学 奈良名誉教授 京都大学 服部特定教授	舗装はつり調査、自走式電磁波レーダによる非破壊検査および舗装はつり調査では、橋梁上面の均しコンクリート(調整コンクリート)のひびわれ・土砂化・雨水のしみだしが確認された。	1) 現地確認した範囲では、橋梁構造について特に措置が必要な箇所や問題等はない。車道舗装の調整コンクリートには、土砂化の現象がみられた。防水層未設置による水中疲労が原因と推定。 2) 主桁や間詰め床版上面、主ケーブル上縁定着部に大きな問題はなく、グラウト未充填が想定される損傷や変状もない。今後は床版の防水対策をしっかりとすれば予防処置となる。 3) 舗装補修で調整コンクリートを再設置する場合は、輪荷重の作用位置の考慮、調整コンクリートの幅員方向範囲、及び高強度材料の採用を検討する必要がある。 4) 橋梁構造の健全性を定量的に評価する上で、床版の塩分濃度等も考慮し対策を考えるのが良い。 5) 降雨の際に排水の状況を確認し、路面排水システムの機能を検討する。 6) スラブドレイン排水の飛散は、改善が必要。	診断結果に基づき、順次対策を進めていく。	
3	国道161号	奥町橋	2023年11月24日	京都大学 五十嵐教授 近畿大学 東山教授 大阪工業大学 三方教授 神戸大学 三木准教授	橋面舗装では、ひびわれやポットホールに対する補修跡が広範囲に見られ、橋面下では主に2方向の遊離石灰を伴う床版ひびわれやうき、剥離・鉄筋露出が部分的に見られる。 床版では、上面の土砂化が進展し、床版の耐力低下が懸念される状況。	1) 非破壊調査の床版上面の劣化と床版下面の目視点検結果の床版劣化に不整合が見られる。情報を整理し、舗装撤去時の直接目視情報と併せて、補修範囲を決定する。 また、床版上面の補修で、損傷の原因が特定出来ない箇所は、広範囲に舗装を撤去し、滞水を生じさせない路面排水処理及び断面修復補修を行う必要がある。 2) ひび割れが床版を貫通している可能性箇所があり、路面の滞水がひび割れ内部へ浸透して生じたと思われる。劣化が進行した場合、床版全厚を新たなコンクリートに打換えるなどの検討も必要。	診断結果に基づき、順次対策を進めていく。	
4	国道1号	山科高架橋	2023年11月5日	関西大学 鶴田教授 京都大学 高橋教授 京都大学 山本教授	P3橋脚梁部(RC中空床版橋とPCポステン箱桁橋との掛け違い部に位置する)に、ひびわれ、うき及び遊離石灰が確認されている。 RC中空床版橋側の縁端拡幅部コンクリートと梁部の打継目には、顕著なひびわれが生じている。	①発生メカニズム [縁端拡幅打継目の開き]は、地震など上方から伝達された力が横方向に影響を与えたと考えられるが、アンカーバーがひび割れを生じさせたかは疑問で、縁端拡幅部への外力等の直接的な原因は特定できない。他の原因として、アンカーの腐食、アンカーの固定不十分等、アンカー機能低下の可能性もある。 [柱部の顕著なひびわれ]は、橋脚柱部の大きなひび割れが懸念される事象で、外力が作用して発生したと考えられる。その他の原因として、軸筋の腐食膨張の可能性もある。 ②対策方針と維持管理方針 ● 橋脚柱部のひび割れ箇所は、ひびわれ幅の変動、雨天後の水の浸透状況、錆汁の流出状況の確認を行う。可能であれば、ファイバースコープ等で腐食状況の調査を行う。 ● 縁端拡幅打継目、橋脚柱部のひびわれ箇所は、研ってアンカー筋や鉄筋の損傷状況等の確認を行う。桁かかり長として機能するとは考えにくいので、調査の結果を踏まえて、適切に補修方法を検討する。 ● 外れた排水管からの排水による鋼板巻立ての腐食が見られるので、水が飛散しないよう処置をする。	診断結果に基づき、順次調査及び対策を進めていく。	